

広東省地域経済発展における外国語イノベーション創出人材育成モデルの検討

康伝金*, 劉文潔, 曾方本

Research of the Cultivation of Innovative Foreign Language Talents That is based on the Regional Economic Development of Guang Dong Province

Chuanjin Kang*, Wenjie Liu, Fangben Zeng

Abstract

This thesis contrasts the view of how to establish a pattern of the cultivation of innovative foreign language talents which is based on the development of regional economic development of Guang Dong province. First of all, it is of great importance to define the concept of a regional innovative system and its impact on the development of regional economic. Therefore, we are able to discuss the interaction between the development of regional economy ,and the cultivation of innovative foreign language talents on this basis. Moreover, we can divide the innovative talents into the innovative talents of institutions of higher learning, innovative talents of scientific research institution and innovative talents of enterprises in accordance with the main part of the regional innovative system, and provide the mirror pattern of the cultivation of talents of these three kinds. Last but not least, we attach great importance to offer a proposal and countermeasure that is on speaking terms of the cultivation of innovative foreign language talents which is based on the analysis of the economic development status of Guang Dong province and its current condition of the innovative talents.

Keywords: Regional economic development of Guangdong province Foreign language talents Training mode

康伝金：中国惠州学院外国語系 環境管理高級工程師、外国語講師

劉文潔：中国惠州学院外国語系 外国語講師

曾方本：中国惠州学院外国語系 外国語教授

1. はじめに

知識経済の挑戦、科学技術の日進月歩、国際間の厳しい競争などに直面し、地域経済は地域間の競争に参与するのみならず、国際経済の競争にも参与しなければならない。地域経済の間の競争にせよ、国際経済の競争にせよ、地域経済発展の要求に応じて、イノベーション創出が必要である。イノベーション創出はすでに21世紀の主旋律である。イノベーション創出を行わないと、発展はできず、立ち遅れを意味する。知識経済は社会発展中での役割が一層顕著で、国民の富の増加や人間生活の改善などは知識の蓄積とイノベーション創出にますます依存している。知識イノベーション創出及び科学技術イノベーション創出の面で優位すれば、自発的に発展できると思われる

一方、技術・知識のイノベーション創出にせよ、製品のイノベーション創出にせよ、イノベーション創出人材が持っている豊富な知識、高いレベルのイノベーション創出能力いかににかかっている。地域経済の発展はイノベーション創出人材からの支えが必要であることがわかる。アメリカ学者はとくに大学教育は地域経済発展に適応し、イノベーション創出人材を育成し、地域経済発展に貢献すべきであることを強調した。この観念はアメリカ大学教育を社会の発展に結び付けて、アメリカ産業と工農業の発展を大いに促進した。

世界経済一体化の発展に伴い、外国語は国境、民族、文化などを超えた言葉として、地域経済の発展に重要な意義を持っている。外国語イノベーション創出人材を育成・使用し、地域経済に貢献することは、すでに人々の共通認識である。人々は学習を通して外国語ならびに様々な言語知識・技能をマスターし、言語に関係する仕事を従事し、社会に貢献している。そして、外国語の応用によって体現した知識や技術が社会各経済分野に浸透している。外国語の知識、技術の経済の内包と外延急速拡大・更新は地域の経済発展の方向と産業構成に影響を与えることができる。したがって、外国語は、コミュニケーションの媒介として、地域の経済発展に軽視できない役割を果たし、外国語イノベーション創出人材の育成は地域国際化と国際経済競争に直結できると言える。

2. イノベーション創出とイノベーション創出人材

イノベーション創出は経済発展の理論の一つである。1912年アメリカのオーストリアエコノミストJ.A. シュンペーターその『経済発展の理論』では、イノベーションの理論を提出し、20世紀30年代と40年代が相次いで出版された『経済サイクル』、『資本主義、社会主義と民主』という本の中で、イノベーション創出を全面的に、具体的に述べ、イノベーション創出理論体系を形成した。シュンペーターは、イノベーションが一種の新しい生産関数を構築し、未曾有の生産要素と生産条件の新ユニットを生産システムに導入するということと考えている。そして、経済を「成長」と「発展」に2つ区分できる。いわゆる経済成長とは、もし人口と資本の増加によって引き起こすれば、発展ではないとする。それは質の面で新たな現象を生まれていることではなく、一種の適応する過程にすぎない。自然なデータの中の変化のように、ただ一種の静態の経済過程である。一方、経済発展は元の均衡状態を破る内部の変革で、特殊な現象である。旧均衡を破り、新均衡を実現できるのは主に内部の力で、主要な要素はイノベーション創出である。イノベーション創出は経済発展をもたらす、経済の発展と経済成長の原動力・源泉であると考えている。

イノベーション創出人材は、イノベーション創出意識、イノベーション創出精神および実践能力を持つ広義の創造型人材である。イノベーション創出人材の要素は、イノベーション創出意識、イノベーション創出アイデア、イノベーション創出精神、イノベーション創出人格、イノベーション創出知識蓄積およびイノベーション創出技能の六要素によって構成される。これらの要素はイノベーション創出人材育成の必須要素であると思われる。

3. 地域経済の発展とイノベーション人材育成

図1の通り、地域経済の発展とイノベーション人材育成との枠組みは地域経済の発展とイノベーションシステムの理論の基礎の上で構築された。まずイノベーション創出システムは地域経済の発展を推進する

中核である。そのシステムのイノベーション創出主体が大学、科学研究機関、企業などであり、政府と仲介機関は、それぞれそのシステムでマクロコントロールと情報伝達の役割をしている。イノベーション創出システムの主体がイノベーション創出人材に頼り、イノベーション創出人材の素質はイノベーション創出人材育成に依存する。イノベーション創出人材の質を絶えず向上するこそ、まさに新しい知識や新技術、新製品を作り出すことができる。これによって、地域経済の競争力を高め、地域経済の急速な発展を推進できる。地域経済発展とイノベーション創出人材育成との関係理論は主に以下の6種類である。

一つは三螺旋理論である。知識経済の社会制度で、革新的な環境の各要素、すなわち政府、雇用機関、人材育成機構は市場の要求に応じて結ぶきずなを形成し、三種類の螺旋関係影響力が交差する。

二つは地域の競争力の理論である。国民の素質と科学技術の向上は地域の中核の競争力の要素であり、人材育成は肝心な一環である。

三つは非均衡成長理論である。人材育成を通じて、科学技術産業構造の更新を生み出す経済成長の極を形成し、一種の経済技術勾配になり、徐々に外へ拡散し、全体の経済の影響が生じて、最終的に、一国の経済発展のバランスをとれるということである。

四つは新成長理論である。人材資源の一種の特殊な形式——知識と技術は、地域の経済成長の決定的な内生変数で、知識の蓄積が当事者の研究、開発、教育、訓練などの方面の投資次第である。したがって、人材育成は地域経済成長の原動力である。

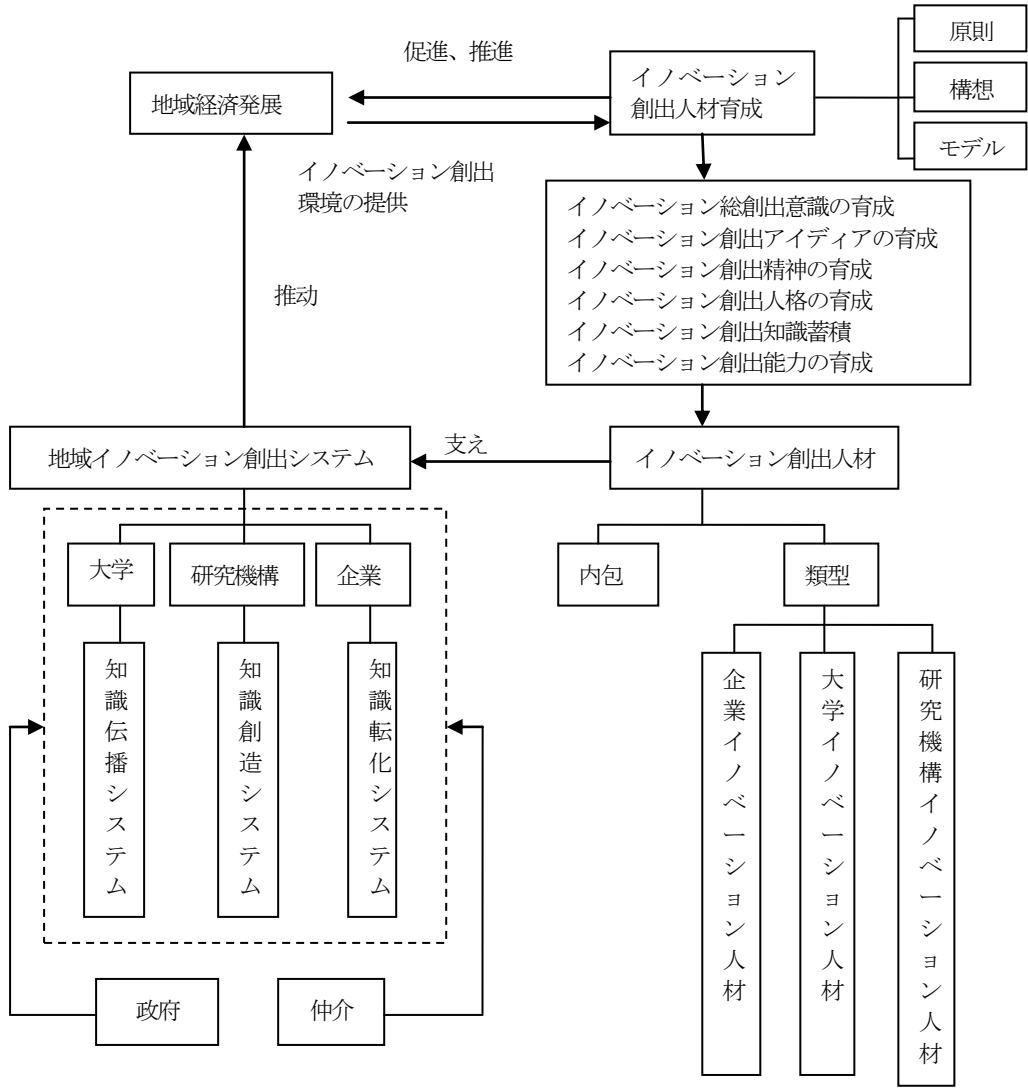


図1. 地域経済発展とイノベーション創出人材との関係枠組み

五つは後発優位理論である。人材資源は再生可能資源で、イノベーション創出の潜在能力と後発優位性を持つ。経済発展途上国や地域が人材資源とイノベーション創出メカニズムの優位性を有効的に利用し、より大きな経済効果と高い経済成長を実現するために、地域の経済を先進国と同化させ、さらに先進国を超え、飛躍的な発展を実現できる。

六つは教育外部関係規則の理論である。教育は人材育成の主なルートである。教育は社会経済、政治、文化に制約され、社会経済、政治、文化の発展に貢献しなければならない。教育は社会経済、政治と文化に密着的ならびに直接的に関係がある。大学教育の地域化は大学より積極的に市場経済に適応する有効なルートである。

4. 広東省地域発展概況

広東省は中国南部の南シナ海沿岸に位置する。広東省の省都・広州市は珠江口にあり、南は香港・マカオに接する。これら3市（香港、広州、マカオ）を結ぶ三角州とその外延部が珠江デルタ地域である。省内の大部分が亜熱帯性季節風気候に属し、気候が温暖である。

広東省の沿海地方は①珠江三角州（デルタ）区（広州、仏山、深圳、東莞、珠海など）、②粵西沿海区（湛江、茂名など）、③粵東沿海区（汕頭、潮州など）に分けられる。また、山区地域は④粵北山区（韶関、清遠など）、⑤粵西山区（肇慶北部など）、⑥粵東山区（梅州、河源）に分けられる。

広東省の経済は1978年以降の改革・開放政策に転換以来大変貌を遂げ、香港、マカオとの連携により中国屈指の経済発展地域となってきた。特に、1980～1981年における深圳、珠海、汕頭に経済特区が設置され、1984年には広州、湛江が沿岸開放都市に指定され、1988、1992年に広州沿岸経済開放区の規模の拡大、1980年～1990年にかけて、国家クラスの経済技術開発区が広州、湛江などに、保税區が深圳福田、深圳沙頭角、広州、汕頭に、さらに国家クラスのハイテク産業開発区が広州、深圳、仏山、惠州、珠海などに設置された。珠江三角州地域は香港との委託加工貿易をスタートにした郷鎮企業を中心に発展を遂げてきており、広東省の工業総生産では国有企業、外資系企業と並ぶ三本柱の一となっている。工業は家電、電子、紡績、アパレル、食品、建材、化学などが発達しており、エアコン、テレビの生産、発電量は全国1位、冷蔵庫、乗用車、ビールが全国2位、小型コンピューター、プラスチックが全国3位、天然ガスが全国4位、原油が全国6位などである。経済の総量は1952年が全国の4.3%、1978年が5.1%、2008年が11.9%、2012年が10%を占めている。今なお23年連続で全国1位を維持している。

一方、珠江三角州（デルタ）区と他の地域経済格差は年々拡大している。また、環境状況は経済発展とともに深刻さを増し、水汚染、大気汚染、産業廃棄物の放棄など多くの課題を抱えている。経済格差解消、エコ文明にはまだ課題が多い。

5. 広東省外国語イノベーション創出人材育成モデルの検討

大学は地域に密着し、地域社会システムの重要な構成部分である。外国語イノベーション創出人材の育成は、広東省社会の要求や課題（地域格差・環境問題）を導きとして、専門の特色と発展の利点を形成し、自発的に地域の経済と社会の発展に適応していく。それにより地域の産業構造と優勢産業の発展の需要にふさわしい地域経済発展の外国語人材育成モデルを構築する。つまり外国語イノベーション創出人材育成モデルは、新しい人材育成生産関数を構築し、未曾有の人材育成要素と人材育成の条件との「新ユニット」を人材育成システムに導入するということである。

5.1 教育改革

5.1.1 外国語教育の位置づけとイノベーション人材育成モデル

図2の通り、外国語教育とその研究を広東省の地域経済発展に貢献するというを主要な目的として、地域経済の発展に応じて、地域経済の発展における現実な課題を解決できる人材の要求を応え、外国語人材育成を地域経済の発展に結び付けようとする。外国語の人材育成を「適応、問題解決、発展」に位置づけ、専門知識はしっかりし、イノベーション創出実践精神を持つ複合型の外国語人材を育てる。

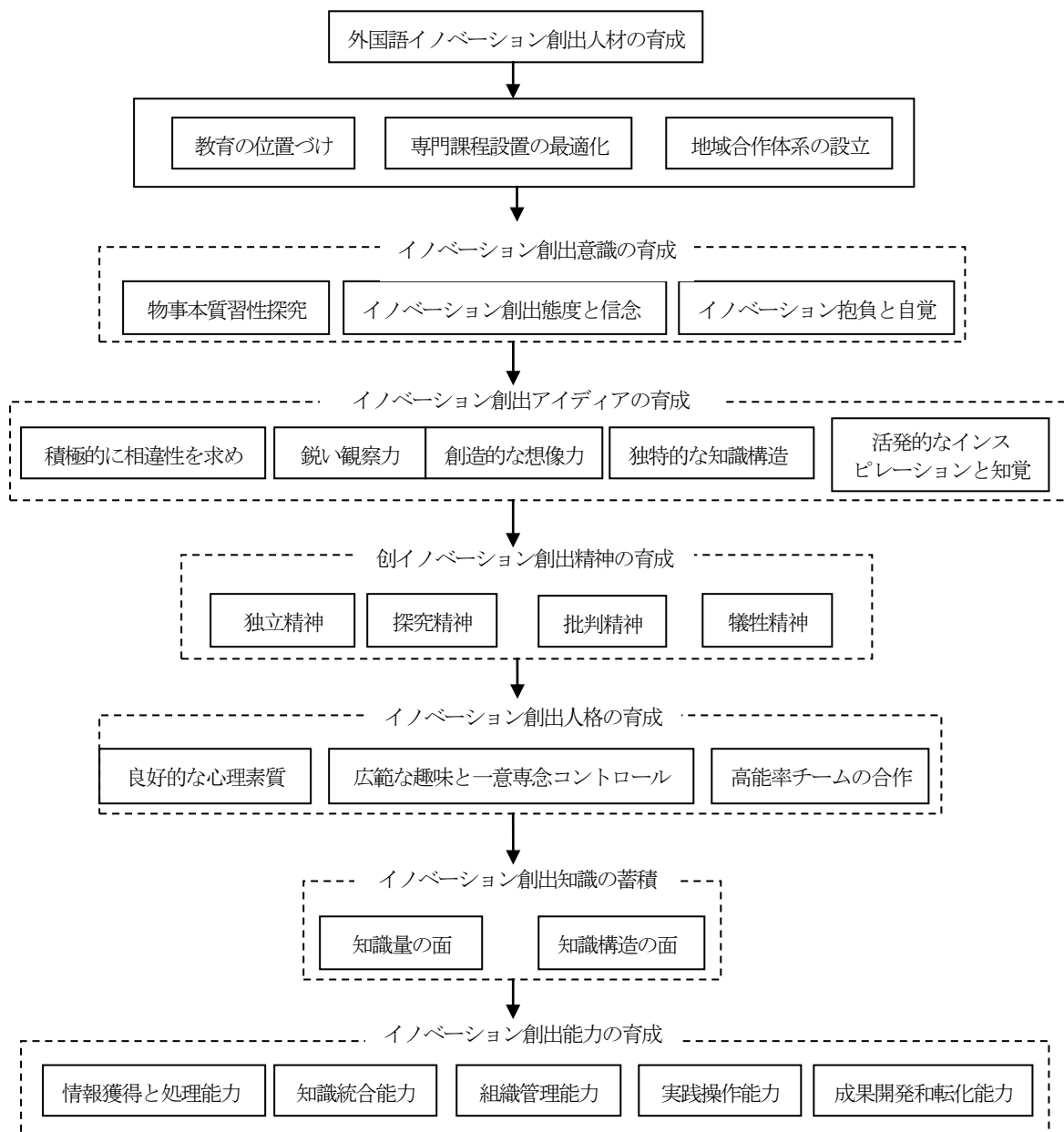


図2：イノベーション創出人材育成モデル

5.1.2 外国語専門課程設置の最適化とイノベーション創出人材育成モデル

専門課程の設置は地域経済に貢献するということを原則とする。学生の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」、「訳」などの基本的な能力を強化し、専門知識をしっかりとさせる。学生の専門知識と実践能力の育成と革新を強調し、学生の総合的な資質の訓練と向上を重視する。外国語の基礎知識+外国語専門知識+専門応用（経済・環境など）/実用技能+に関係総合知識（経済・環境など）」の育成モデルを構築する。即ち学生がしっかりした基礎知識を身につけて、体系的に外国語専門知識を勉強した後、学生が外国語専攻応用/実用技能応用実践の勉強や文化素養／多学科総合知識の育成訓練を強化する。このモデルは、既存の専門に若干の関連する研究方向（専攻語実用技能、文化素質、総合学科の知識）を入れる。改革を通じて、外国語の言語知識や専門実用技能、中外文化など多学科の総合知識を外国語教育に溶け込んで、学生にしっかりした基礎知識を身につけるのみならず、実際の運用技能や学科総合知識も学ぶことができる。

5.1.3 地域協力サービス体系を確立する

大学が積極的に地域内の政府関係部門や国内外の企業と対話、交流を行い、共同研究やプロジェクトの共同実施、訓練基地、外国語の運用実践研究室設置などをすべきである。地域内の政府関係部門、国内外企業は外国語専門教師が企業での兼職、ビジネス商談の参加、企業の顧問などを奨励する。大学が積極的に国内外の企業の専門家や外国語人材を招聘し、大学で講義したり、学術活動を参加したりしてもらう。地域内の政府が積極的に大学教育・実践基地の整備を支持し、優秀な卒業生を国内外の企業で働くことを協力し、現場で働く卒業生が実際の経験で自分の成長や感ずることの紹介を励ます。学部や部門を超えて協力し、設計、開発、翻訳、トレーニングなどを一体した協力機構を設立し、地域の発展に貢献する。

5.2 外国語人材育成におけるイノベーション素質

5.2.1 イノベーション創出意識の育成

イノベーション意識は人の一種の心の潜在的エネルギーで、個体自身から強烈な変革的な願いである。個人と社会の発展の過程で要求した革新、変化要求の一種の意向である。イノベーション意識の育成は創造能力を形成する重要な意義がある。外国語の面で「聞く、話す、読む、書く、訳」という技能を身につけただけで、外国語の人材と言えない。合格する外国語人材が一番大切なのは自分のイノベーション創出を行い、前人が発見できないことを発見し、解決できない問題を解決できる。それこそが外国語人材と言える。だから、まず、外国語人材としては広い知識を備えて、次はイノベーション創出意識を持つべきである。例えば、時間の同一性については、何年もずっととされた真理だが、強烈なイノベーション創出意識を持つ、アインシュタインはそれには疑問がわいて、さらに深く研究して、この問題をやっとりラティビズムを確立した。イノベーション意識は、主に物事の本質習性の探究、正しいイノベーション創出態度と強い信念、高遠の革新の抱負と主動的なイノベーション意識である。

5.2.2 イノベーション創出アイディアの育成

すべての人が生活と生存の過程の中で、いかなる事あるいはいかなる行為をする場合は、いつも「考える」と「やる」という二つの部分を存在する。すなわち「まず考えて後やる」という論理関係を存在し、構想は進路を決めるというわけである。激しい競争の現代社会において、イノベーション創出人材を育成するために、イノベーション創出アイディアを育てなければならない。以下の手段は見事に外国語専攻の学生の想像力を育成できる。

一つは絵を見て話す。学生に絵を見せ、学生自身の想像力を発揮させ、すべての思ったことを外国語で表現し、必要であれば、教師がアプリケーションの語彙や文型を提示し、最後に教師が訂正と総括をおこなう。

二つは情景演技である。授業の中で、教師はテキストの内容を情景物語を編成し、外国語の知識ポイントと教育内容をその中に入れ、学生の学習が簡単な真似を思惟の真似にして、学生の革新的な情熱を沸き立たせ、学生のイノベーション創出能力を育成する。

三つは協力して勉強する。学生をいくつかのチームに分かれ、各チームはすべて各自の学習目標を持ち、その目標を達成するために、全メンバーがお互いに協力し、共同で努力しなければならない。このようにして学習の動力と興味を強化するのみならず、より良好なチーム意識を身につける。

イノベーション創出アイディアは五つの特徴がある。すなわち積極的に相違性を求めて、鋭い観察力、創造的な構想力、独特な知識構造、活発なアイディアと感覚がある。

5.2.3 イノベーション創出精神の育成

学生のイノベーション創出精神を育成するメインルートは教育、特にイノベーション創出教育である。教師は、教育の活動の中で意識的に外国語の教育情景を作り、学生を導いて主導的に参与できる外国語学習環境を創設する。学生の積極性を沸き立たせ、学生が知識習得・応用の能力とその習慣を育成し、すべての学生を十分に発展させる。現在、以下の三つの情景の創設と利用は教育の中で提唱する。

一つは、「問題情景」である。それが強い吸引力を持ち、学生の好奇心と知識の求める意欲を誘導啓発させ、学生の創造的な考えを引き起こす。

二つは、「真実な情景」である。学生を連れて現場で、生活と仕事のシーンの中で学んで、学んだ知識を利用し、問題を解決する能力を育成する。

三つは、「協力教育の情景」である。つまり、協力教育を通じて、学生を主体としての役割を十分に発揮する。対話を利用して、学生のコミュニケーション、協力、競争の能力などを育成する。

イノベーション創出精神は、主に独立精神、好奇心、批判精神と献身精神の四つである。

5.2.4 イノベーション創出人材人格の育成

多くの研究によって、イノベーション創出は、能力の開発のみならず、特質の育成であることもわかる。言い換えれば、人々のイノベーション能力を高めには、イノベーション創出に関係する個性を育成し、イノベーション創出人材人格の育成はイノベーション創出についての個性特質の育成の重要なルーである。心理学の研究では、人間の知力の要素が近い場合、人格的要素の育成はイノベーション創出能力の肝心な要素になるかもしれない。イノベーション創出人材人格の育成は、主に良好な心理の素質、広範な趣味と一意専念コントロール、高い効率のチーム協力の精神である。

5.2.5 イノベーション創出知識の蓄積

知識は主に自然科学知識と社会科学知識に分け、人々が客観的な物事の現象と過程に対する反映であり、自分の知能と応用能力によって客観世界を認識した結果である。知識は知能の基礎で、知能はイノベーション創出能力の基礎である。イノベーション創出知識の蓄積は、主に、知識量の面と知識構造の面である。

5.2.6 イノベーション創出技能の育成

イノベーションは、物事の発展の過程のみならず、物事の発展の結果をも含む。本当のイノベーションを実現するには、内在のイノベーション意識を育成し、イノベーション創出アイデアを養成し、イノベーション創出精神を保つべきである。また、外在の技能訓練・育成を強化し、イノベーション創出技能を備えるべきである。イノベーション創出技能の育成はイノベーション人材育成の中核の内容である。現在、中国外国語教育は学生に書物の知識の伝授を重視し、学生が社会実践参加の技能訓練を軽視する。その結果、学生の全体のイノベーション創出能力が欠如である。

イノベーション創出技能の育成は、主に情報の取得と処理能力、知識の統合力、組織管理能力、実際操作能力および成果の開発と転化能力の育成などである。

6. 結論

イノベーション人材の育成はシステム工学である。本文はイノベーション創出やイノベーション創出人材および地域経済の発展とイノベーション人材育成の理論を探究した後、主に広東省における地域経済発展の外国語人材育成モデルおよびそれにふさわしい教育管理体制とメカニズム、イノベーション人材の素質の具体的な育成ルートを検討した。教育はシステムの学問であり、大学教育の人材育成の構成部分として、外国語イノベーション人材の育成は、地域経済発展の要求に応じて、教育の位置づけや人材育成理念の更新、課程設置の調整および教育方法の改革を行うべきである。外国語イノベーション人材の育成モデルは学生のイノベーション創出意識やイノベーション創出の思惟、イノベーション創出精神、イノベーション創出人格、イノベーション知識蓄積およびイノベーション能力を中心に、外国語教育・専門プラス研究方向教育と教養教育を組み合わせ、社会実践と理論の学習を組み合わせ、大学は自身の条件と地域経済発展の実際の状況に応じて、外国語イノベーション人材の育成に対して、システムの、効果的な研究を行い、社会と地域経済発展にふさわしい人材育成システムを構築すべきである。

参考文献

- [1] 杨向容, 陳偉. 大学生創新実践指導[M]. 北京: 冶金工業出版社, 2011.
- [2] 孔桂英. 泛珠江三角背景下地方外国語教学と区域経済的互动發展[J]. 梧州学院学报, 2011. 21 (5).
- [3] 于波, 周丽娉. 地方大学创新型外国語人才培养模式研究[J]. 唐山学院学报, 2012 (4).
- [4] 庄智象等. 探索适应國際化创新型外国語人才培养的教学管理模式[J]. 外国語界, 2012.